

食料支援 協力を

福島市のNPO法人チームふくしまが運営する無人型食料庫「コミュニティフリッジひまわり」は、県内でスーパーを展開する「いちい」が所有する市内の建物に移転した。登録者は60世帯に上り、施設には連日、利用者が訪れる。物価高などの影響で支援物資の先細りも懸念され、同NPOは地域の協力を呼びかけている。

物価高 コロナ禍… 不足懸念

コミュニティフリッジとは「公共冷蔵庫」を意味する。児童扶養手当や就学援助を受けている一人親世帯、奨学金の給付を受けている学生を対象に、食料や生活用品をいつでも無料で受け取れる場を提供している。地域の団体や個人、企業から物資の寄付を受けながら運営している。運用は2月から始まり、同NPOのスタッフやボ

ランティアが管理を担っている。従来はアパートの1室で運営していたが、いちいの協力を受けて8月から移転した。家賃や駐車場代などの固定費を物資購入に充てることができているという。

一方、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高の影響や、新型コロナウイルス感染拡大の長期化などで、利用者は増加傾向にある。登録者の利用頻度も増えており、今後の物資不足が懸念されるといふ。

半田真仁理事長は「継続的な支援には地域の協力が欠かせない。『お互いさまのまちづくり』のためにも、支援の輪を広げたい」と支援を求めている。

問い合わせは同NPO 電話024(563)7472へ。

福島の公共冷蔵庫「ひまわり」移転



地域の協力を得ながら運営している「コミュニティフリッジひまわり」